

(参考) 大東町内温浴施設整備の検討経過

「海潮温泉温浴施設整備検討委員会最終答申（平成22年11月15日付提出）」より

【海潮温泉所在の市営温浴施設等の今後の取り扱い方針(H20.11.4 付け雲南市通知文書)】

1. 「海潮温泉」所在の市営4施設（大東健康ランドゆとりの里、大東農村環境改善センター（桂荘）、雲南市営大東憩いの家（かじか荘）、雲南市大東ふれあいパーク）については、平成20年度末をもって指定管理を終了する。
2. 利用者の安全確保に支障をきたしている「大東健康ランドゆとりの里」については、平成21年4月以降閉鎖する。
3. 「大東農村環境改善センター（桂荘）」、「雲南市営大東憩いの家（かじか荘）」については、市直営により平成21年4月以降も運営を継続するが、老朽化が顕著であることから、条件が整い次第、1.の雲南市大東ふれあいパークを除く3施設の入浴機能を整理統合した新施設を整備する。したがってこれに伴い、かじか荘は解体、桂荘については浴場のみを閉鎖する。
4. 「雲南市大東ふれあいパーク」については、平成21年4月以降も運営を継続するが、年次的に規模縮小、将来的に廃止の方向とする。

第1回（平成21年6月22日開催）

～第14回検討委員会（平成22年11月4日開催） 概要（略）

中間答申について

（平成22年8月26日付提出）

4. 新施設のコンセプト、整備位置、構造、機能等について

○これまでの議論をもとに、本委員会において、以下のとおり新施設のコンセプト（設置目的）、整備位置、構造、機能及び設備についての方向性を取りまとめたので、今後の事務執行については、これをもとに進められたい。

①コンセプト(設置目的)

良質で豊富な湯を活用した市民の「健康増進施設」として整備されたい。「神話」や「歴史」、「癒し」を活かした「地域活性化のための情報発信基地」としての役割も持たせることを提言する。近隣に類似の温浴施設が多数存在する中で、観光集客施設として位置付けるには課題が多く、あくまで市外等からの集客については副次的な効果として捉えるべきである。

②整備位置

「現在ある桂荘を基本とした施設整備」または「現ゆとりの里駐車場、ゲートボール場敷地を活用」の2案で検討されたい。

とくに「桂荘」については、延床面積約2,000㎡のなかに、大集会室、会議室、農事研修室、調理実習室などが整備されており、これら各室の改修をベースに、

新規に整備する部分との一体的な有効活用によって、より魅力的な施設整備が可能となるものとする。

なお、海潮温泉旅館街と今後整備の温浴施設は、ハード面及びソフト面でじゅうぶんな連携を図っていくべきである。

③構造

木材を多用したものとし、高齢者等の利用を踏まえたバリアフリー構造とされたい。

④機能及び設備

ア) ランニングコストや将来的な改修コストを踏まえ、できるだけシンプルな構造、設備とされたい。

最終答申について

1. 既存施設の役割等について

- 1) 既存3温浴施設（ゆとりの里、桂荘、かじか荘）及びふれあいパークは、老朽度が進み、また、多くの借地の上に整備された経緯もあり、効率的な雲南市の行財政運営を目指す観点から、継続は困難と判断する。海潮温泉における公共温浴施設をひとつに整理統合することを前提に、新たな施設整備について検討を進められたい。
- 2) 新たな施設整備を行う上では、市有地または用地の取得を前提に進められたい。

2. 新施設の整備スケジュールについて

（略）

3. 新施設のコンセプト、整備位置、構造、機能等について

中間答申書の提出以後の議論をもとに、本委員会において、以下のとおり新施設のコンセプト（設置目的）、整備位置、構造、機能及び設備についての方向性を取りまとめたので参考とされたい。

1) コンセプト(設置目的)

良質で豊富な湯を活用した市民の「健康増進施設」として整備するとともに、「神話」「歴史」「癒し」を活かした「観光情報発信基地」としての役割も持たせることを提言する。

2) 整備内容

ア) 現在の桂荘の利活用を基本に、当該施設の増改築等により整備を進められたい。

（略）